

スーパーグローバルハイスクール(SGH)活動報告

★平成 26 年 11 月 22 日(土)、中間課題発表会を実施しました！



運営指導委員の先生方、大阪府教育委員会の先生方、SGH 授業担当の先生方と記念撮影
未来のグローバルリーダーの卵たちです

プログラムと発表内容

13:00 ① 開会式 学校長挨拶、運営指導委員紹介

【本校の SGH 運営指導委員の先生方】

川淵三郎先生	首都大学東京理事長、日本サッカー協会最高顧問
斉藤 淳先生	J PREP 斉藤塾 代表、元イェール大学政治学科助教授
福原正大先生	IGS (Institution for a global society) 株式会社 代表取締役
池本幸生先生	東京大学 東洋文化研究所 教授
中尾俊治先生	近畿大学 入学センター アドミッションオフィサー
中濱秀徳先生	大阪府教育センターカリキュラム研究室主任指導主事
吉年匠子先生	大阪府教育センターカリキュラム研究室指導主事

13:15 ② 三国丘高校の SGH カリキュラム紹介 (5 月～10 月) SGH 研究主任 田中和代
③ 西本昌二先生の授業で学んでいること

A. パネルディスカッション「国際人としての理念を学ぶ」

・ 国家とは何か？	杉本、新田、松尾
・ 国内問題 vs 国外問題 ー世界共通の規範とは？	佐野、百々、檜作、久保
・ なぜ理念が大事なのか？	岡野、阪口、坂本、山本真
・ 論理とコミュニケーション	上野、伊藤、永田、林、山西
・ リーダーとは？	河本、荒井、白野、村上

1 年生のカリキュラムの大きな柱の一つ、「国際人としての理念を学ぶ」の授業の成果を 20 名の生徒が発表しました。ファシリテーターは授業を担当してくださっている元国連開発計画の西本昌二先生です。それぞれの班がテーマに対する自分たちの考えを発表し、それに対して他の班が質問を投げかけました。時間が足らず質問に対する回答まではできませんでしたが、答えのないテーマに対してよく考えて発表していたと思います。運営指導委員の川淵先生は、「リーダー論のところは、僕にあてはまるかなあと聞き入ってしまったよ。」とおっしゃっていました。





生徒の発表内容については記録をご覧ください→[パネルディスカッションの記録へ\(リンク\)](#)

発表後、次のような質問がありました。「今のようなディスカッションをする風土が、日本の教育現場には薄い。自分の意見を正々堂々と言うと、『あいつはいい恰好をしている』と言われてしまう。今日のような活動を見て、本当に感動しました。質問ですが、今までの経験から、例えば教室で自分の意見を言うといじめられた、とかそのような経験はありませんでしたか？」

すると、一人の生徒が次のように答えました。「僕は、小学校中学校のときに自分の意見を言って、友達から『おまえ、イキってんじゃねーよ(大阪弁で『かっこつけてるんじゃねーよ』)』と言われてことがあります。でも、僕からするとそんなこと気にせず自分の意見は持つておくべきだと思ったので、何を言われても、いじめっぽいことされても、あんまり気にしませんでした。」(会場から大拍手)

それを受けて、西本先生から授業で生徒に何度も語られた言葉が紹介されました。「燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや(えんじゃくいずくんぞこうこくのころざしをしらんや)」。意味は、「ツバメやスズメのような小さな鳥にどうしてオオトリやクグイのような大きな鳥の志が分かるだろうか。小人物には、大人物の大きな志は分からない」。「私は、彼らをあえてエリートと呼んでいます。選ばれた人たちです。選ばれた人たちには果たすべき努力と責任があります。それをちゃんと自覚して、これから大きく羽ばたいてほしい。」心に刻んで、がんばりましょう！

14:05 ③ 西本昌二先生の授業で学んでいること

B. プレゼンテーション「Logical Framework」

①Logical Framework とは ②Logical Framework を用いた考察例

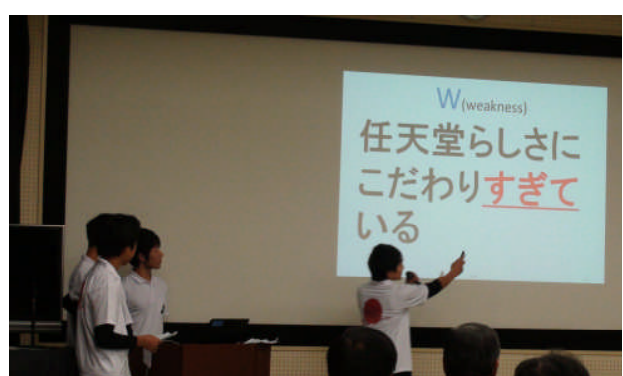
北村、早川、児島

高堀、中井、歌坂、中尾、松下

「Logical Framework」は、西本先生が国連開発計画の前に勤務されていたアジア開発銀行で実際に使われているテキストで、問題の原因・結果を論理的に導く方法です。

まず、女子3名が Cause-Effect-Tree を使った分析方法を紹介し、中でも PEST 分析について交通渋滞の例を使って説明しました。次に男子5名が、考察例として任天堂をとりあげ、SWOT 分析について紹介しました。運営指導委員の福原先生からは3つの点で評価していただきました。

1. 国際的な大きな問題に対して Framework というものをしっかり使って分析しようとしていること。高校1年生からこのようなことに挑戦するのは財産になる。
2. PEST 分析、SWOT 分析などを使って多角的に事象を見ていること。すべての学びは政治、経済、文化などと複雑につながっているが、将来大学・大学院と進学するときに、自分の興味は何なのか、偏差値ではなく冷静な分析の元に選択できるのではないか。その基礎を作っているのがよい。
3. 分析に終わるのではなく、来年のフィールドワーク、さらに政策提言につながっていくのがよい。



「本来ならこんなことは高校 1 年生に言うことではありませんが、皆さんがあまりに素晴らしいので」、ということで、さらに学びを進めるうえでのアドバイスもいただきました。「Framework に頼りすぎてしまって、つまり頭でばかり考えてしまって、現実を見落としてしまうことがある。感性を使いながらいろんなものを調べていってほしい。アメリカでは design thinking といって、まず体験することから始める方法が実践されている。フィールドワークでは、ぜひ人間の話を聞いてそこからいろいろと考えてほしい。また、任天堂のプレゼンでは在庫ということまで本当によく調べているが、SWOT 分析というのは弱点も指摘されている。ダイナミズムとの関係もぜひ学んでほしい。せつかく国家とは何かという学びもしているので、任天堂が国家や世界に与えた影響などを考えるのもよい。」

あとで聞いた話ですが、発表の後福原先生のところへ行って、「発表は満足のものではなかった。次はもっといい発表ができるようリベンジします。」と話した生徒がいたそうです。期待しています！

14:20 ④ メリルハースト大学の授業で学んでいること

① Sustainable Business 1 “The Fundamentals of Business”

山本峻、渡邊、大葉、長井

② Sustainable Business 2 “The Lorax” and its Implications”

大田原、塩谷、岡田、西田、福永

③ Sustainable Business 3 “Important Economic and Social Challenges Facing Japan”

盆子原、上池、仲野

1 年生のもうひとつの大きな柱である、米国オレゴン州ポートランド市にあるメリルハースト大学の Outreach Program (出張授業) の発表を行いました。この授業は、メリルハースト大学で実際に行われている授業「Sustainable Business」を三国丘バージョンにアレンジしたもので、ビジネスの基本や企業倫理など環境に配慮した持続可能なビジネスとは何かを学ぶものです。まず最初の班がビジネスの基本について発表し、次の班は映画「The Lorax」で学んだことを発表し、最後の班が SGH の授業を受けることで考え始めた日本が抱える問題について発表しました。



運営指導委員でもあり、元校長先生でもある中尾先生からは、「英語教育を特色とした高校で校長をしてきましたが、高校 1 年生で、SGH の授業に取り組み始めてまだ半年というところでこれだけ堂々と臆することなく発表できたのは、本当に素晴らしい。メリルハースト大学の先生の授業でめきめきと英語力をつけてお

られるのがよくわかりました。」という評価をいただきました。ご指導いただいている Brian 先生からもとてもよかったとコメントをいただきました。

「SGH の授業を受けていて、楽しいと思うことは何ですか？」という質問には、「毎週 SGH の授業を受けさせてもらって、大学生で習うことを高校 1 年生から学ばせてもらっているということで、貴重な経験をさせてもらっていると感じています。僕たちが知らなかった知識を吸収できるすごい機会だと思っています。これからいろいろなことを吸収していきたいです。」「私たちが普段生活している社会を、考えもしないような視点から考えるということがとても楽しい。」「西本先生の授業では、自分たちでは考えられない内容ばかりで、全部は吸収できていないかもしれませんが、この半年間新しい言葉などを学んでいて感動ばかりです。考え方がすごくレベルが高くなってきていて、今私は女性問題について発表させてもらいましたが、こんなことは以前なら考えつかなくて、哲学の方まで踏み込んでしまいそうになります。先生にもいろんな話を聞かせてもらってすごく楽しいです。メルルハーストの授業はオールイングリッシュで結構難しいんですけど、自分が将来グローバル社会に出た時に絶対に必要なビジネスのことを英語で学べているので、とても楽しく思っています。私は SGH の授業に出ることが三国丘に受かった唯一の楽しみです！（場内爆笑）」

- 14:45 ⑤ 三国丘高校の今後の SGH カリキュラム紹介 SGH 研究主任 田中和代
14:50 ⑥ 運営指導員の先生方による総評
15:05 ⑦ 閉会式

研究主任としてこの事業に携わらせていただいて、この日のように生徒の成長を感じられるのが何よりのやりがいとなります。この半年間いろいろな学びをしてきてもらいましたが、彼らはいつも私の予想を超える反応を示してくれていて、また、授業がとても楽しいと言ってくれていて、まずは順調なスタートをきれたことにホッとしています。

いつも生徒には「何事にもコミットすること。そしてたくさん失敗すること。しかしそこから必ず何か学ぶこと。」と言っています。（この発表会でも、司会に挑戦したのはコミットしてくれた4名でした。臨機応変にうまく会を仕切ってくれていました。）1年生らしからぬ度胸でこの発表会を乗り切ってくれて、正直「もっと失敗しろよ～」と思ったぐらいでしたが、彼らの感想を読むと「緊張してあまりうまく話せなかった。」「次はもっとよいプレゼンをしたい。」など反省の言葉が多数見受けられて、あれだけたくさんの先生方に褒めていただいても満足しない彼らにまだまだ可能性を感じました。これからも彼らの知的好奇心を刺激し、未来のグローバルリーダーとして成長を促していきたいと思っています。

最後になりましたが、この発表会には全国各地から、高等学校をはじめたくさんの教育関係の方々にお越しいただき、励ましの言葉をいただきました。本当にありがとうございました。また、保護者の皆様にも多数お越しいただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。これからもたくさんの方々へアドバイスをいただきながら、よりよいカリキュラムを構築していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度の締めくくりとなります「平成 26 年度課題発表会」を 2 月 14 日（土）午後本校にて実施いたします。ぜひ、そちらにもご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。（詳細が決まり次第、HP 等を通じてお知らせいたします）

発表会の前、円陣を組む生徒たち。
1 期生ということで、いろいろなことを作り上げてもらっています。おそろいの T シャツは西本先生と田中前校長からのプレゼント。本校オリジナルの SGH ロゴがまるで日の丸のよう。まさに日の丸を背負っている若者たちです。



平成26年度大阪府立三国丘高等学校 SGH中間発表会 Photo Gallery



Thank you!